

第3分科会

ケアの商品化と利用者負担

【ねらい】

ケアの社会化ということが言われて久しいが、実質的には商品化とそれに伴う個人・家族責任の増大＝私事化というのが急速に進行している。公定価格と利用者負担のあり方を問うことは、ケアを誰と/どこで分けるか、ケアの専門性をどのように規定するかということに結びつく問題である。本分科会では、ケアの商品化と利用者負担が増大する中で、現場にどのような問題が生じているのかを確認する。そのうえで、本来のケアの社会化に向けての制度・政策のあり方を考える機会としたい。

【報告】

基調講義 ケアの商品化と利用者負担

奥野隆一さん（佛教大学社会福祉学部教授）

現場報告

ケアの商品化にともなう支援の歪み

利用者負担のあり方→ケアの私事化の強まり

（保育領域から）福井茂さん（社会福祉法人あおば福祉会 箕面保育園）

（障害領域から）市井亜紀さん（社会福祉法人 萌 生活支援センターぼると・ベル）

（高齢領域から）正森克也さん（社会福祉法人こぼと会）

【助言者】奥野隆一さん（佛教大学社会福祉学部教授）

【コーディネーター】塩満卓さん・田中智子さん（佛教大学社会福祉学部）